

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	赤坂喜清先生ご略歴
別タイトル	Retired Professor Yoshikiyo Akasaka: Curriculum Vitae
作成者（著者）	東邦大学医学会編集委員会
公開者	東邦大学医学会
発行日	2022.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 69(1). p.2 4.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2021_047
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD21321284



赤坂喜清先生ご略歴

1956年9月26日生

- 1984年3月 帝京大学医学部卒業
- 1988年3月 慶應義塾大学大学院医学研究科（博士課程）修了
- 4月 慶應義塾大学医学部病理学教室助手
- 1990年3月 医学学博士取得（慶應義塾大学）
- 1992年8月 東邦大学医学部病理学第二講座講師
- 1998年1月 東邦大学医学部病理学第二講座助教授
- 2003年4月 東北大学医学部非常勤講師
- 2005年4月 東邦大学医学部病理学講座准教授
- 2012年8月 東邦大学大学院医学研究科先端医科学研究センター教授
- 2017年4月 東京大学医学部非常勤講師

受賞

- 2000年 東邦大学柴田奨学助成金
- 2007年 第37回日本創傷治癒学会会賞
- 2010年 東邦医学会賞
- 2019年 大学院医学研究科ベスト・ティーチャー賞

学会および学外の役職等

- 日本創傷治癒学会 理事長（2020～21年）
- 日本病理学会 評議員
- Editorial Board：Wound Repair and Regeneration（2022年）

専門分野

血液病理学, 創傷治癒学

退任にあたってのお言葉

赤坂 喜清¹⁾²⁾

¹⁾東邦大学医学部病理学講座

²⁾東邦大学大学院医学研究科先端医科学研究センター推進研究部門組織修復・病態制御学研究室

今年度で東邦大学医学部病理学講座と大学院医学研究科先端医科学研究センターの教授を退任にあたりご挨拶申し上げます。

昭和59年に帝京大学医学部を卒業後、慶應義塾大学を経て平成4年に東邦大学医学部第二病理学講座に参りました。新天地への不安と期待が複雑に交錯し当時の思い出が鮮やかに思い出されます。30年間の歳月を振り返ると医学部が大きく変わったことに驚いております。3号館の敷地はかつて煉瓦造りの結核病棟がありその隣には大きな倉庫の材木間屋があり、昭和の大森間屋街の風情が残っていたが、今ではこれらの跡形は全く無くなり時代の流れを感じざるを得ません。

第二病理学講座では川村貞夫先生のもと、故山田武先生と一緒に研究する機会に恵まれました。山田先生の職種の分け隔て無く討論しながら研究を進める姿勢が大変心地よく、その後の私の研究スタイルに大きな影響を与えたようです。

川村貞夫先生の後任の石井壽晴先生のもとで創傷治癒の研究を開始しました。創傷治癒は、原始人が狩猟で負った傷をいかに治すかという太古から継続している学問です。最近、米国では創傷治癒による組織修復メカニズムの研究成果が注目されています。その理由は再生と瘢痕形成の両

輪で進む傷害臓器が修復する際に、修復パターンは再生に比べて瘢痕形成の方が遙かに多いからです。よって瘢痕形成は多くの傷害臓器が辿る修復パターンであり、瘢痕を抑制して脱落する機能細胞を減少させることが傷害臓器の瘢痕形成による機能不全の改善に貢献すると考えられるからです。

平成23年には大型公的研究事業が採択されました。私が担当する研究課題は瘢痕線維化の抑制から脱落する実質細胞の改善を目的でした。そこで網羅的解析から瘢痕線維化の抑制分子を探索し、選定した1個のmicroRNAが線維化の抑制分子であることをラットの実験系で報告することができました(最終講義参照)。研究開始から7年間の長い道のりでしたが、定年退職までに何とか公表することができて安堵しております。長い期間にわたり、惜しみなく多大な研究支援を頂戴した病理学講座や病院病理学講座の先生や職員の方々に感謝しております。また研究運営に多大なご支援を頂戴した医学部長をはじめとする諸先生と職員の方々にも御礼するとともに、今後の東邦大学医学部の教育と研究のさらなる発展を祈っております。

DOI : 10.14994/tohoigaku.2021-047